

Inter BEE REPORT EXPERIENCE

人気ブランド9社が集結 最新ラインアレイ [前編] Demo & Presentation

レポート: 半澤公一

撮影: 土屋 宏

1965年に第1回がスタート、連年開催を重ね第50回を迎えた国際放送機器展「Inter BEE 2014」。期間は2014年11月19日～21日、例年どおり3日間の催しとなった。会場は第26回(1990年)以来おなじみの「幕張メッセ(千葉県美浜区)」で行なわれ、節目の年とあって来場者数は過去最多となる37,959人を記録。盛会のうちに幕を閉じた。「JEITA(一般社団法人 電子情報技術産業協会)」主催のもとプロオーディオ、プロライティング、映像・放送関連機材、ICT/クロスメディアと4つの部門カテゴリーに分かれ、977社・団体が1733小間を出展。この数字もこれまでの記録を塗り替えるものである。そうしたなか、第50回開催の記念イベントのひとつとして行なわれたのが『INTER BEE EXPERIENCE』と題したスピーカー・システムの試聴会。会場施設「イベントホール」で催された「ラインアレイスピーカー体験デモ」である。ホールの大空間を利用して、参加総数9社のスピーカー・システムのすべてをフライングで聴かせるという、得がたい体験ができる貴重なデモンストレーションだ。各社ともに試聴時間は充分に用意され、その内容も吟味。場内はまさにエクスペリエンスそのものの連続であった。このレポートでは参加各社が行なったデモの様子に加え、エンジニアを務めたサウンドデザイナー、大内健司氏および開催事務局プロデューサーの高橋嘉樹氏のインタビューを届けたい。前編となる今号では、イベント当日の様様を見ていく。

参加ブランド

d&b audiotechnik Y-Series
TOA HX-7
JBL PROFESSIONAL VTX-V20
Meyer Sound MINA
EAW Anya System

Martin Audio MLA
NEXO STM series
L-ACOUSTICS K2 System
CODA AUDIO LA12

「ラインアレイスピーカー体験デモ」が行なわれたのは開催期間の中日にあたる11月20日。会場となったのは「幕張メッセ」内の施設である「幕張イベントホール」で、最大9,000人収容の大空間である。今回の催しではこの会場のアリーナ部分だけを用いて試聴エリアを限定。10時30分の開始から16時40分までと、各社30分の持ち時間で全9社が出揃った。参加メーカーについては後述のリポートを参照いただきたいが、全社SRシーンを代表するメーカーばかり。聴き応えのあるラインアップとなった。

観客の会場への出入りはまったくのフリーエントリーで、お目当てのモデルを狙うもよし、全機種を聴き比べてもよしといった気の張らない形態に好感が持てる。

持ち時間30分のプログラムとしては、バリエーションを持たせた6種の共通音源がおおよそ7分間。残りはメーカーが自由にプレゼンテーションを行なうといった形式で順次進行。共通音源の内訳は男女各ナレーション、CDによる異なるジャンルの音楽を3曲。そして5人編成の生バンドが1曲といった構成で、バンド「LiLi」は女性ヴォーカルで、間奏にはギターソロが含まれスピーカー・システムの素性がわかりやすい選曲がなされていた。ちなみに使われたコンソールはハウス、モニターともに「YAMAHA CL5」で、入出力ともに音声信号はデジタルで伝送。また、場内のレイアウト上は、アンプの至近やスピーカーの背面側へ回り込んで見学できる通路が確保され、観客への配慮を考えた周到な準備がなされていた。

d&b audiotechnik Y-Series

「d&b」を取り扱っております「オタリテック」の武津です。今年(2014年)10月に発表となりました「Y-Series」をご紹介します。このモデルは中規模なスタンドアロン式または分散型のポイントソースソリューションに適している一方、「V-Series」や「J-Series」と同様、中規模なラインアレイポテンシャルにも幅広く対応できるラインソースとポイントソース計11種から構成されます。今回のデモンストレーションでご試聴いただくのは水平指向性80°の「Y8」および120°と近距離向けにカバーエリアの広い「Y12」。そしてサブウーファー「Y-SUB」となります。「Y-Series」の持つ特徴としては、10年ほど前にリリースされました「Q-Series」のコンセプトを継承しつつ新しいテクノロジーを詰め込んだ位置付けとなります。「Y8」および「Y12」は8インチドライバー2基の構成となっており、「Q-Series」に比ベドドライバーをひとまわり小さくすることで軽量化してコンパクト化を図っております。しかしながら最大音圧レベルは「Q1」同様139dBを誇っており、この点につきましては「d&b」社の開発コンセプトのひとつであります。他社製品との比較において、同じ音圧でもどれだけコンパクトに仕上がるか、という設計思想を実際に展開しているものです。

「Y-SUB」は、パッシブ・カーディオイドサブウーファーと

なります。フロントに18インチ、リアに12インチを搭載し、アンプは1チャンネルでドライブできます。今日のシステムは8/4対向、「Y8」が上6本、下2本が「Y12」で指向性が広がっております。前方でその効果をぜひ。また、サブウーファーについてはキャビネット後方へ回り込んでいただけますので、カーディオイド低域のキャンセレーションの様子もお聴き下さい。スピーカーケーブルについてはNL8を用いたマルチ駆動に対応しており、ちなみに今回、フライングされたものはNL8が1本のみです。それでは何曲か聴いてください。

~~~~試聴タイム~~~~

今日はこの「Y-Series」の他に「J-INFRA」というサブウーファーもご用意しています。21インチのドライバーが3本搭載されており、27Hzまで拡張が可能です。

「d&b」は近年マドンナ、コールドプレイ、レディー・ガガといった著名アーティストのワールドツアー、また設備でも「フランクフルト歌劇場」やシドニーオペラハウス、日本では「東京国際フォーラム」、「大阪フェスティバルホール」で稼働中です。それではこの「J-INFRA」を加えてあと2曲、大音量になりますが聴いてください。



「d&b audiotechnik」の  
試聴システム

Presenter 武津邦高氏